

# リレー 橋友録 私の橋歴書

<742>

高校時代、私は、山口形で、詳細設計、施工計  
 具(下関)と北九州(門画、架設に携わり、高校  
 司)を結ぶ関門橋の建設時代からの夢を実現する  
 現場をバス通学の途中で、ことができました。

眺め、長大橋建設に憧れ  
 を持ちました。その体験  
 ルートの生口島と因島を  
 結ぶスパン比15:49:15  
 する大日本コンサルタン  
 トに昭和55年入社しまし  
 た。

その後、本州四国連絡  
 橋プロジェクトに参画  
 (生口橋)する機会を得  
 て、昭和61年から約5年  
 間、建設会社に向する



た点です。このような構  
 造形式は、国内では最初  
 のものであり、国外でも  
 数は少なく、斜張橋の規  
 模(中央径間長490m)は  
 建設当時では世界最長  
 でした。

日本中から選りすぐりな橋屋がいて、調整事項  
 の橋梁技術者が参画するも多く、大半が自分より  
 プロジェクトの中で、設年上でもあり、人の使い  
 計から施工に至るまで従方や接し方の難しさを痛  
 事することでも多くの経験感しました。当時上司の  
 を積むことができませんでした。梶川靖治さん(現撰南大  
 た。特に、自然の力を思学教授には、報告書等の  
 い知った印象深い出来事書き方について一字一句  
 は、主塔に取付けた斜べを添削指導していたた  
 ント上で鋼桁とPC桁とき、この経験が今でも大

## 長大橋建設に憧れて

大日本コンサルタント(株)

常務執行役員 新井 伸博  
 東京支社長

を閉合する際、日射の影きな財産となっていま  
 響で主塔が前後左右に数す。

影響で斜べント上の鋼桁 大地震が発生し、直後に  
 も変動し、「閉合箇所の 現地入りし約3カ月間、  
 位置決め」や「閉合部の 主に橋梁の復旧計画に携  
 間詰りコンクリート打 わりました。被災橋梁の  
 損傷状況に驚愕するとも

に、耐震性と補強規模等 業に反対する世論、コストダウンの要請など、建  
 ます。また現場には多種多様な性能とコストを規定

も蔵書)。その後、岡林教授には、意分野と人材(「技術力」  
 が必要であり、「競争相  
 営業戦略や商品化等のビ  
 ジネスモデルの重要性を  
 徹底指導され、技術提案  
 維持する唯一の鍵である  
 時代を勝ち抜く原動力を  
 と考えております。自分  
 養いました。また、これ  
 が契機で入社20年目に、  
 長崎大学で建設CALS  
 /ECを題材に博士号を  
 取得しました。

成長させていき、他人を  
 成長させると信じます。  
 次回は、飲み友達の一

共事業費の削減や公共事  
 業に反対する世論、コス  
 トダウンの要請など、建  
 ます。